

- ◆ 福岡財務支局では、平成25年12月からプラットフォーム「九州の未来力2030」を開催してきたが、更なるプラットフォームの深化・拡大を図るために、地域の将来を担う金融機関・経済団体・民間企業の中堅世代が、地域金融のあるべき将来像について考え、自由に意見を交わす場として「地域金融ワークショップ」を28年9月から29年2月まで開催。
- ◆ 参加したメンバーからは、ワークショップを通して普段の業務を超えて議論する中で、様々な気づき、考え方に変化があったとの声もあり、今後も、地域の将来を担う者が交流を深め、ともに将来について考察する場を提供していく。

1. 成果事例の概要等

「九州の未来力2030」(平成25年12月～28年3月 全10回開催)

- 東京オリンピックの更に10年先(2030年)を見据えたオール九州の構想が必要との認識の下、地域の有識者が参画する“プラットフォーム”として活動。

継承・発展

2030年の将来を担う中堅世代が自由に語り合い、自ら考える「きっかけ」づくりの場を提供!

「地域金融ワークショップ」(28年9月～29年2月 全5回開催)

- メンバー** 管内の金融機関、経済団体、民間企業の将来を担う中堅世代 30名(5班)
- テーマ** 『金融機能の再デザイン～今後必要とされる金融機能とは何か～』
地域を活性化するうえで、地域経済の担い手である「金融」の役割は重要! 地域経済、地域金融を取り巻く様々な課題や変化を踏まえ、「金融機関はどのような役割を求められ、地域のために何をやるべきか」について考えて議論。
- 事務局** 当局、DBJ(日本政策投資銀行)九州支店、FDC(福岡地域戦略推進協議会)3者共同。各班には当局中堅職員も参画し、メンバーの議論をサポート。
- 内容** 「地域の課題」、「新たな金融ビジネス」、「金融監督行政」、「中小・ベンチャー企業支援」等、多彩な内容の講義のあとグループ討議。
最終回(29年2月22日)は班別に議論した内容をまとめ、プレゼンテーションを実施。地域の有識者が審査員となり、5班の中から3月23日開催の「金融仲介の質の向上に向けたシンポジウム」でメイン発表する2班を選考。



ワークショップメンバーと地域の有識者



金融仲介の質の向上に向けたシンポジウム

地域を活性化するには?

2. これまでの取組の成果等

- プラットフォーム「九州の未来力2030」について、メンバーを刷新し、カタチを変えて深化・拡大。
- ワークショップを通じて、メンバーに、「地域金融機関のあるべき姿」を自分たちの問題として考えるきっかけ・気づきを提供。メンバーの考えにも大きな変化が。

参加者の声

【金融機関】

- 改めて金融機関が地域の中で果たすべき役割の大きさを認識。
- 連携すること、先の変化を見極めること、金融の役割を全うすることの重要性を再確認した。
- 金融の現場にいる自分たちの頭が既存の考えに凝り固まっていると痛感。
- 今後も将来を考察していく場を提供し続けてほしい。

【経済団体・民間企業】

- 金融機関の動向などを意識して確認するようになった。
- 参加者との情報交換、議論、交流は貴重な経験となった。
- 今起こっていることを認識でき、新しい視野が広がった。
- 私たち世代が地域を盛り上げていかなければと感じた。



3. 今後の課題と福岡財務支局の対応

- ワークショップに限らず、将来を考察する場、金融機関と民間企業など、異なるフィールドの者が交流する場を財務局が提供することは、地域の将来の活性化という観点で大変有意義。
- 地域活性化のため、「今後必要とされる財務局とは何か」を考えながら、財務局がとりあげるべきテーマを選定し、地域のプレイヤーが交流しながら、将来を考察する場を今後も提供し続けていきたい。